

第42回区民車座集会意見交換内容（中原区）

- 1 開催日時 平成30年12月21日（金） 午後3時00分から午後5時00分まで
- 2 場 所 けいわ会 上小田中保育園 2階遊戯室
- 3 参加者等 参加者15名、傍聴者5名 合計20名

<開会>

司会：皆様お待たせいたしました。それでは定刻となりましたので、ただ今から第42回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます中原区役所まちづくり推進部企画課の山口と申します。よろしく願いいたします。

今回、中原区では区民車座集会のテーマを「地域と保育所」といたしまして、区内の保育所関係の皆様と、地域を代表して町内会関係者の皆様に御参加いただいております。

それでは、本日の参加者の皆様をグループごとに、席の順に御紹介させていただきます。

初めに、Aグループとして、西宮内保育園、杉山僚子様。けいわ会、上小田中保育園、石川篤子様。エクセレント武蔵新城保育園、女木トモ子様。いちご保育園、内田正志様。保育所ちびっこランド新城園、野辺武夫様。上新城町内会、石井稔様。新城中央町内会、中村明宏様。

次に、Bグループとして、下小田中保育園、和田理香様。さくらの木保育園・乳児保育園、吉田和江様。しらゆり中原保育園、織田一郎様。ひまわりほいくえん、清水彩加様。あおぞら保育園、高林勝様。保育ルームフェリーチェ武蔵中原園、齋藤まどか様。上小田中町会、保坂政一様。下小田中1丁目町会、内藤廣一様。以上、15名の方に御参加いただいております。

次に、行政からの出席者を紹介させていただきます。福田紀彦川崎市長でございます。

市長：よろしく願いいたします。

司会：向坂光浩中原区長でございます。

区長：よろしく願いいたします。

司会：それでは、福田市長から一言御挨拶を申し上げます。

市長、お願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、改めまして、こんにちは。第42回の区民車座集会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、今日は町内会自治会長さん、地域の皆さんと、そして大変お忙しい中、園長さんあるいは施設の責任者の方にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

今日、この時間でマイク使って大丈夫かな、拍手どのぐらいしちゃって大丈夫かなってどきどきしていましたが、お子さんたちも昼寝から覚めたみたいなので大丈夫だと思いますが、ちょっとトーンをいつもよりは落としてやらせていただきたいと思います。

今日のテーマは、今お話あったとおりなのですが、今、中原区内これだけ人口が伸びて若い人たちも増えていきますから、当然のごとく保育所というのをものすごい勢いで整備をしているということです。先ほど改めて確認しましたら、認可と認定合わせて、区内143の施設になっている。おまけに、この5年間

でできた新設の園がその中で55もあるということで、いかに急速に増えていっているかということだと思うのですが、その中で、限られた中原区ですから、園庭があるところが少ないとか、あるいは公園もちょっと遠いとか、いろんな課題がたくさんあると思うのですが、この地域の中でどうやって子育てをしていく環境を皆で整えていくかということ、単なるハードとかということだけではなくて、あるものをどうやって活かしていくかということ、これをテーマに皆で議論していければと思っています。

短い時間ではありますが、今日、おそらく初顔合わせの方もいらっしゃると思いますが、是非、こういった機会にいい議論ができればなと思っています。

今日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

<趣旨・目的及び本日の流れについて>

司会：ありがとうございました。

それでは、さっそく車座集会を始めていきたいと思いますが、まず初めに、今回の区民車座集会の趣旨、目的及び本日の流れについて、中原区役所地域みまもり支援センター保育所等・地域連携担当課長の金子から御説明させていただきます。

金子保育所等・地域連携担当課長：皆さんこんにちは。今日は、車座集会にお集まりいただき、どうもありがとうございます。市長の御挨拶にもございましたけれども、皆さんも御存じだとは思いますが、中原区は小杉駅周辺を中心に、人口が急増している地域でございます。特に、子育て世代の転入も増加しています。それに伴い、お話にもありましたけれども、保育所が毎年10カ所以上、建設、開設されています。全体で見ますと、川崎市全体では約600の保育施設がありますけれども、この中原区では、全体の5分の1がこの中原区に集まっています。そして、お話にもありましたけれども、そのうちの3分の1の保育所が開設5年未満の新しいところとなっています。

その開設5年未満の新しいところでは、他都市から参入する園も増加傾向にあります。このため、中原区や川崎で保育をしていくこと自体が初めての保育園もあります。また、保育施設の規模などの違いもあって、園庭のスペースがない施設もあります。

天気の良い時は、子供たちの探求心や情緒の育成のために公園に保育士たちは行きますけれども、駅周辺には比較的公園が少なく、園児同士、地域の方々が密集して公園を利用しているということもございます。

保育所としましては、地域の方と、また保育所同士も仲よく過ごしたいという思いがありながらも、なかなかうまく進んでいかないという悩みもあるようです。

そんな中で、一つの事例としましては、数カ所の公園で地域の方と保育所の園児たちとで清掃や花植えをしながら交流したということもございますけれども、まだまだそれらは始まったばかりです。

ということで、今日はこの大戸地区の保育所と町内会、公園管理運営協議会の方々にお集まりいただきまして、お互いとお互いの顔が見える関係づくりをはじめ、子供たちがよりよい関係で育っていけるような地域を目指していける、初めの一歩としまして、この車座集会を設けておりますので、皆さんでお話いただければと思います。

では、本日の流れの説明をさせていただきます。本日は、同じ大戸地区エリアではございますけれども、Aグループは武蔵新城駅周辺、Bグループは武蔵中原駅周辺のエリアで分かれていただいています。

これから約1時間ワークショップ形式で意見交換をしていただきますが、進行役として区の職員も一緒に入らせていただきます。出された意見などを付箋に書き、各テーブルにある大きな用紙に貼りつけます。この用紙はワークショップ終了後に皆さんに分かりやすいように前に貼り出したいと思っています。その後、市長と参加者全員の意見交換を約45分間行っていただく形になります。

地域と保育所または保育所と保育所のさらなる関係づくりのきっかけになればよいと思っていますので、

和気あいあい、そして活発な意見交換をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(拍手)

<意見交換>

司会：それは、ただ今からグループごとに意見交換を行っていただきたいと思います。

意見交換中は、市長、区長、市職員のほか、本日は中原区の園長連絡会運営委員の園長の方にもお越しいただいております。皆様の意見交換の様子を傍らで聞かせていただきますので、御了承ください。

それでは、ただいまから約1時間、4時10分までを目安に始めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(ワークショップ)

司会：それでは、予定の1時間が経ちました。

意見交換の途中のところもあるかと思いますが、一旦ここで終了していただきたいと思います。

皆様お疲れさまでした。

それでは、ここからは市長を進行役といたしまして、参加者の皆様全員と意見交換を行っていききたいと思います。前半の意見交換の内容等を踏まえ、活発な意見交換ができればと思います。時間は5時までを目安とさせていただきます。

それでは市長、進行のほどよろしくお願いいたします。

市長：皆さん、ありがとうございました。

私も行ったり来たりしながらちょこちょここと会話を聞かせていただいておりますけれども、まず、第一印象として感じたのが、この会で、今日顔合わせただけでもすごく良かったのではないかという気がいたしました。それは、いろんな発見があったのではないかなと思います。

先ほど、こちら話を聞いていましたら、自分の自治会町内会はどこだったのかということを知ったという。そうしたら、お隣の会長さんが、あなたの町会はどこだよ、そして会長さんは園の隣の隣だというふうに教えていただいたということからもそうですし、あるいは自治会さんと何か一緒にやりたいのだけでも、なかなか今まで顔を合わすきっかけがなかったということというのが、それぞれのテーブルでちらほらと聞こえてきましたので、ここに相集った時点でもう既に大きな一歩を踏み出したのではないかという気がしています。

Aグループ、Bグループにそれぞれに議論を、会話をしていただいたので、ここでも大分完結はしていると思うのですが、せっかくAグループ、Bグループありますから、Bグループの方の話は是非Aグループの方にも聞いていただきたいし、その逆もそうだと思います。それぞれいい意見がとても出ていたと思いますので、これから少しお話を伺っていききたいなと思います。

まず、園長先生方にお伺いしたいのですが、子供たちを地域の皆さんあるいは地域の皆さんでも、例えば高齢者の皆さんと一緒に交流をしたことがあるという園の方ほどのぐらいいらっしゃいますか。

半分ぐらいでしょうかね。半分ちょっとあるかなという感じですね。

これから、是非してみたいという方、今手を挙げていただいた方も含めてですね。

全員手を挙げていただいたということです。

じゃあ、経験者にもう一回聞きますけれども、地域の人たちとふれあって、子供たちはどういう反応を示したかということをお伺いしたいのですが、こういう反応あったよと、子供たちの声を少し聞かせていただけるでしょうか。

まず、Bグループのほうからお話聞きましょうか。Bグループで経験者の方はどなたかいらっしゃれば、ちょっとお話伺っていいですか。どういう子供たちの反応あったか。

高林さん：まず、子供たちはすごく積極的になって、良くも悪くもですけど、公園に行っているいろんな人に声をかけるようになりますよね。何となく自然に遊んでもらっていたりします。だから、そういったところはすごく良かったと思うのですが、その反面誰でも声かけていいわけじゃないというところもあったりするので、そういったところではどうなのだろうというところで、そういったところを少しずつ教えていきながらやっていけば、とても良い機会じゃないかなと僕は思っていますけど。

市長：ちなみに、高林先生のところはどのようなふうな形で交流が始まったのですか。

高林さん：うちは隣が公園ということもあったので、もうほとんどその公園に遊びに行っていましたので、そこで僕自身もずっと清掃活動とかをしてたりして、そういった姿を見ていたのか、向こうから自然に声をかけてきてくれるし、あと、必ず公園に入るときに子供たちに元気な声で挨拶するようにやっていますので、そういったところで、多分大きな挨拶で皆が反応してくれるといいますか。

市長：ある意味何かをイベントを仕掛けたわけでもなく、公園から自然発生的にこの交流が生まれていったという形ですね。

高林さん：そうですね。自然発生的なものが多いです。

市長：子供たちの反応としてはいかがですか。

高林さん：もう、すごく喜んでます。

市長：園にいるときと、地域の人たちとふれあっているときというのは、どういう反応ですかね。比べてみると。

高林さん：すごく楽しんでいることには変わりはないので、ただ、やっぱり、環境が変わるじゃないですか。違う人と会いますので。その環境の変化にやっぱり、変化を楽しんでいますよね、子供はね。そういったところですごく良いのではないかなと僕は思っていますけれども。また、今後も続けていきたいと思っています。

市長：ありがとうございます。

他に、交流しているよ、こういう良い反応があるよという例は、どなたか他にいらっしゃいますか。

さっき手を挙げた、交流しているよという方いらっしゃいましたよね。

女木先生。

女木さん：エクセレント武蔵新城保育園の女木と申します。

新城保育園は、まだ今年2年目で新しい保育園なのですがすけれども、民生委員さんとのつながりがありまして、ちとせ会館で60人位の老人の方が集まって何かイベントとか結構するのですがすけれども、お食事会をするので、そのときに近くの保育園なので、歩いてすぐちとせ会館で、そこに是非遊びに来てくださいということで、御招待を受けまして、初めてなのですけれども、そこに伺って子供たちが歌を歌ったり、行く前に

おじいちゃんおばあちゃんたちと明日遊ぶよというお話をして子供たちはプレゼントを作っていこうといって、折り紙で60、70個ぐらい子供たちと一緒にだるまさんの折り紙をつかって、子供たちに一人ひとりおじいちゃんおばあちゃんたちに、手渡しで60人の方にお渡しをして、すごく皆さんにも喜んでいただいたんですけど、子供たちがすごく嬉しいんですけど、穏やかな、甘えるような子供たちの様子があって、穏やかになって帰ってきたような印象がすごくありますね。

普段は同年齢の子供たちで遊んでいるのですけれども、やっぱりおじいちゃんおばあちゃんと一緒に遊ぶことで、子供たちが穏やかになって、優しい気持ちにお互い、多分そんな気持ちになるのだろうと思うんですけど、そういうことでいろんな方たちとの交流は大事なんだなというふうに思います。

市長：ありがとうございます。

ちなみに、自治会町内会のほうからお声がけがあったのですか。

女木さん：民生委員さん。第三者委員の方でもあるのですけど、その方と、去年そんな話をさせていただいたみたいで、今年そうやってつなげて行いました。

市長：もともと女木先生と、民生委員の方の交流があったというところから発生したと…。

女木さん：私今年からなので、私も初めてその方とお会いしたのですけれど、うちの理事がつながりを持たせていただいている、それでつながりました。

市長：なるほど。ありがとうございます。

今答えていただいたように、既に交流されているところは本当にいい反応があるし、是非やりたい。やっていないところも、是非これからは取り組みたいというふうなお話でした。

一方、Aグループの中の議論を聞いていて、そうは言ってもなかなか難しいんだよというような本音のお声もちろほら聞こえてきたので、そのあたりの率直な声というのを聞かせていただきたい。あるいは、これまでの地域の中での子供というのはどうなんだということを交流といっても、なかなか町会も忙しいよねというような話もありましたけど、そのあたりの率直な話がないと、この先がなかなか進まないと思いますので、是非、会長さんからよろしいですか。

石井さん：はっきり言って面倒くさい。町会だけに限らずいろんな行事が、さっきも言ったんですけど、役所のいろんなものがあるのを両方とも引き受けたら何が何だか分からなくなっちゃうぐらいの、特にこここのところ忘年会、新年会のこれに参加、出欠みたいなふうに、ごちゃごちゃ分からなくなっちゃう。冗談ですけども。

こちらでもお話したのですけど、町会の役員自体がうちは非常にやっている人が若いのですよ。40、50。地元の人が多いので、親がもう死んじゃったとか後継ぎで入ったのですけど、まだ何も分からないとか、忙しいとかそういうのが結構あるので、あと同年代の委員さんは、こここのところ皆、癌になっちゃって、身体の調子が悪くなって、本当に使えない人が多いです。

市長：ただ、何かさっき前向きな、花壇と一緒にやっていただいたときに良い話も聞こえましたけど。

石井さん：それは12月4日に、道路公園センターのほうで、保育園と公園の清掃と花植えしますとあって、そのときも面倒くさいなという状況で。さっきのように、やることいっぱいでもないですけど、いろいろあるので、ただ、保育園児と聞いたから、なおさら幼稚園なら、小学校ならまだわかるけど、保育園とは交流

したことないから。

結局、皆に言っても、町会の人でも5、6人来てくれたのですが、結局その前に、掃除前に危ないからガラスとか、そういうものをとっておいたほうが良いという話で、結局保育園児の方の、公園なんかの場合には安全のけががないようにとか、それをまず考えちゃうので、いずれにしても、ここでもお話ししたのですが、顔合わせも初めてですし、いろいろ今後、これが2回3回続けられるような方法でお互いに連絡がとれる方法がとれたら。

これはこれで、また来年は違うところでやるのでしょうか。そういう意味では、顔合わせだけで終わっちゃったのでは非常に…なので、何か幼稚園同士もそうですし、町会とも連絡、交流ができるような方法をこれから考えていきたいと思います。

市長：ありがとうございます。

ものすごく前向きな形でまとめていただきまして、たしかに今、町会でもやること多いし、町会ごと、それぞれ事情はあると思いますけども、若い方の役員がすごく多いって、これ、ある意味特殊だと思うのですが、そういう現役世代の方が役員をやっていると、やる人がケアする人たちというのが限られちゃっていると。そういうところでは、なかなか地域的にも難しいところがあるよねと。だけど、今後こういう顔合わせということだけではなくて、もう少し、初めて会ったけど、これから顔を合わせていけばいい形になっていくのではなからうかというようなお話もございました。

お隣の中村さんも、町会のほうにいろいろ、今日ここに挑む前にお話をいただいたときに、ちょっとどうなのかなというふうなお話もあったと聞いていますが、ちょっとそのこと、御披露いただけますか。

中村さん：私は、初めにこの話を聞いたときに、私も小さい子供を預かったこともないし、うちは娘と息子がいるのですが、両方結婚していないですし、私は後期高齢者だし、そういう接点がなかったのですよ。だから、他に適当な人がいるのではないかなと思ったのです、最初お話が来たときに。

それで、わざわざうちまで来ていただいて、いろいろお話しして、こういうことも必要なのだなということで来たのです。話をやっぱり聞くと、私らが知らないことはいっぱいありますし、先生方も私らも相当知らないこともいっぱいあるでしょうし、こういうことをしておく、やっぱり良かったですね。

市長：ありがとうございます。

今、中村さんからすごくすてきな話があったのですが、知らないことって結構あるよねというふうなお話でした。逆に、先ほど杉山さんのほうから、私たちも知らなかったというお話があったので、ちょっとそのことも御披露していただいてもいいですか。

杉山さん：やはり、保育園のほうは地域の方との交流を、ずっと切に望んでいて、今日の機会にせつかくお会いできるからそんなお話を進められたらという思い、やる気満々で今日は来たのですが、先ほどやはり、町内会さんのほうの実情をお聞きしたら、やっぱりいろんなところで安全面の、園児が来るとなれば公園の安全面の配慮が必要だとか、いろいろなところで御配慮されていることとか、やはり先ほどの町内会さんのほうは、代がわりで今若い方が多いから、交流はしたいけれども、実際日中の時間帯に、なかなか交流に参加できるような人がいないのだということとか、実情をお聞きして、一方的に私は交流したいという思いがあったのですが、やっぱりお話を聞くことで、お立場というか状況がわかったので、本当に今日は参加をして今そのような状況の中でできる交流って何なのかなということを改めて考えるきっかけとなりました。

市長：ありがとうございます。

本当に、やっぱり顔を合わせて人の意見を、相手の立場を聞いてみないと分からないことというのはたくさんあるというのは、このわずか1時間の中でも出てきたのではないかなと思います。

例えば、公園にガラスが落ちていたら、先ほど石井さんの話もありましたけれども、危ないのではないかなという話もあるし、先ほど高林さんのお話でも、やたらめったら声をかけていいというものでもないしというふうな形で、顔の見える関係をどうやってこれからちゃんと構築していくかというふうなことが課題になっているんじゃないかなと思わせていただきました。

先ほど、こちらのテーブルで保坂さん、自治会長さんは話を聞いていて、実にいろんなよく制度のこともお分かりで地域のことでもよく御存じで、あそこでは何やっている、ここでは何やっているよ、近くの近所で赤ちゃん生まれたことまでよく御存じだというので、スーパー自治会長さんのような感じをいたしましたけれども、今の話の続きからいきますと、お互いがどうやって理解していくというスムーズな入り方、どういうふうにしていったらいいのか、あるいはしてきたのかということ、ちょっとお話いただけますでしょうか。

保坂さん：全然スーパーでも何でもないのですけれども、スーパーマーケットみたいで。

実は、私は保育園さんとながらをつくるようになったのが、中原区の地域支援課の方、今日もいらっしやっていますけど、そちらのほうからふれあい体操やってくれと言われたのですよ。ですから、それはちょっと町会としては、うちは小さいものですから、地域支援課さんのほうでやっていただけるならば、それをお手伝いはしますよということで、今でも月に2回ふれあい体操というところで、こちらの保育園の方々とふれあっていたりとかいう、そういうような、ちょっとしたきっかけでそれが分かったのです。今、どういうふうにしてやったらいいかということを経験して、いろいろな意味で、資源というかそういうものが周りに転がっていると云っちゃおかしいのですが、あるわけですよ。例えば老人いこいの家が近くにあるとか、老人いこいの家では、たくさんの趣味的なものがあります。その中で保育園さんが必要とするものを、そこで見つけていただける。

ですから、先生方に老人いこいの家に行って、そこら辺あたりのものを見学されて、それで必要なのは保育園の園児にはこうやったらいいかなというところを御協力願うと。

老人いこいの家というのは定期的にやっているわけです。ですからその中で、仲間にちょっと、仲間にというわけではないですけど、ならせてもらうとか、そういう手はないのかなと思います。もう一つは、老人会というところで、老人会につきましては、こちらが一丁目の会長さん。

市長：ありがとうございます。

内藤さんに振られましたので、内藤さん、老人会のほうの活動も活発なのですか。

内藤さん：すみません、振られちゃって、余りよく分からないのですが、たしかにうちの町会は、年齢が65とか70まで働いている人が多いところで、あくまでボランティアなので、町会は。逆に言うと、老人会さんのほうが普段の時間は動く時間が非常に多くて、うちの町会は60から70名くらいの老人会の会員がいて、いろいろな行事に参加しているのです。大戸小学校でも昔遊びですかね、その辺で呼ばれて、私たちが行っているのですけど、やはり老人のほうがよくできるのです。面子とか、コマをやったりして。私なんか、けん玉なんかやるのですけど乗らないのですよ。でも老人の人は乗るのですよ、私よりもお年寄りの人が。だから、そういう形で、今も私たちが隣の町会なので、先ほど言ったふれあい体操ですか、私たちが10月から一緒の方に言われて月1回やっているのですけど、まだ始めたばかりなので、それは私たちよりは老人会の方が主力でお頼みして、だから結構な人数が来ていただけて、うちだけじゃなくて他の町会でも来てもらっているのですよ。声かけたわけじゃないのですけど、ポスターとか貼ったら他の町会の人でも来て、五丁目とか四丁目とか、一丁目じゃないのですけども、やっていただいて、いいことだなと思って。先

ほども言ったのですが、できたら来ていただいて、一緒に30分ぐらいなのですけれども、体操をしたり何かしていただければなと思って、お話ししたのです。

市長：ありがとうございます。

こうやお誘いがこの場所でも行われたということですが、今、園長先生側にもう一度聞きたいのですが、老人いこいの家に足を運んだことがあるという先生、どのぐらいいらっしゃいますか。

やっぱり少ないですね。2名の先生ということで、先ほどAテーブルで、石井さん、中村さんどちらかがおっしゃっていたか、ちょっと記憶があれですけれども、余り新しいことを始めるというよりも、あるものから始めて、どこかで聞きかじったのですけれども、あるところから始めてみたらというような話を気負わずに新しいことをやるよりも、例えば老人いこいの家で、先ほど保坂さんからお話あったように、こんな活動を定期的にやっているから、そこに足を運んでみるというふうなもの、きっかけの一つかもしれませんね。そこから顔の見える関係だとか、あるいは実際話してみるとこういう難しさがあるんだということの、お互いの思いが繋がってくる可能性があるのかなと思わせていただきました。

Aグループ、Bグループ、それぞれにいい議論をされているなと思いました。

何か、今日は、ちなみに先ほどの保坂さんの話の続きですけど、今日、新たにこんなこと発見したなど、いろんなことよく御存じだと申し上げましたけれども、今日、園長先生との話の中で、これは初めて知ったなど、あるいは気づいたなどということは、おありになりますか。

保坂さん：私、ちょっとお聞きしたのですけれども、園のほうで若いお母さん方に相談されているということ初めて聞きまして、本当にそれはいいことだなと思ひまして、やはりお母さん方の中には、本当に子育てで悩んでいる方、例えば赤ちゃんが泣くわけですよ。我々だと、赤ちゃんが泣くというのは当たり前だと、これが仕事なんだからというふうに思うのですけれども、うるさいなというようなことを考える方の中にはいらっしゃると思ひますけれども、そういうような方で悩んだり、あるいは赤ちゃんと二人で家の中に一日中いるというようなことがあったときに、やはり精神的にまいってしまうのですね。ですから、そういうときに、保育園で相談して、いわゆる保育園のセンター化ですよ。子育てのセンター化ということをしていただけているということについては、本当にうれしいな、よかったなというふうに思っていますけど、今度何かあったら、御紹介をしたいと思ひます。

市長：ありがとうございます。

自分の身近なところの町会さんの中で、ちょっと子育てに悩んでそうだなという人があれば、そうか近くの保育所のほうに御相談すればいいのかなということ、今日やっているのだということを知ったということでもあります。

先ほど、このことについて吉田先生のほうからお話がありましたよね。ちょっとその話をさせていただけますか。そのことについて、また織田先生からもやっている取組なんか御紹介いただければと思ひます。

吉田さん：たまたま自分は、大変歴史のある保育園で、旧小田中保育園というところで、昨年29年4月に民営化されて名前を変えた部分なので、地域の中にかかなり浸透しています。そして、様々な地域の方たちの希望を聞いて、大きな括りではなくて、ゼロ歳の中でも、短い3カ月から5カ月のミミケロとかおだっこ広場とかいうところの部分でやってまいりました。

そこに来れる方たちから、もっと波及して、家の中で、本当に子育てに悩んでいる方たちのお声を聞きました。そういう方たちが、大変垣根が高い保育園に来園されたり、あるいはお電話でもって、本当に他愛のないお話なのですけれども、きっかけがあるとお話をすることによって悩みが解消されるというところでは、大変大事なことなのかなというふうに思っています。

あと、一方でそれに答える保育士の資質も非常に向上すると思います。自分が頼られる存在であるということに、保育士自身も気が付いてきていると思います。

そういう部分では、転入者が多い中原区では大変大事な役割なのかなというふうに思っております。

市長：ありがとうございます。

すばらしい、それぞれの保育園で預かっている園の子供さんだけではなくて、地域の子育てに悩む人たちの相談場所、ちょっと話を聞いてあげる場所だけでも、本当に大切なのだというお話をいただきました。

織田先生のところで、少し取組をされているというので伺いましたけれども、御紹介いただけますでしょうか。

織田さん：しらゆり中原保育園の織田と申します。

私どもの保育園では、入園前に見学に来られる保護者の方々、何十名もいらっしゃるのですけれども、その方々にお声がけをして、私どもは園庭がない保育園で1歳児からなのですけれども、今子育てしているゼロ歳児のお母様方、やはり第一子だったりするお母様方は特に、いっぱい悩みを持っていると思うのですね。先ほど、保坂さんのほうからもお話がありましたけれども、精神的にまいっている方というのは結構多いと思います。私たちはお母様方に一人ひとりにお電話をしまして、お気軽に相談承りますけどいかがですかと。最初は5人ぐらい来てくれればいいかなというふうに思っていたのですけれども、意外なことに10人ぐらいお集まりいただきまして、内容のほうは保育士のほうが対応するのですけれども、基本的には私たち保育士からすると普通なことなのですけれども、やっぱりお母様方は、必要以上に悩んでいますので、基本的には大丈夫ですと。そういう気持ちを伝えることによって、すごく保護者の方が安心して、場合によっては涙を流されるような方もおいでになりました。

私たちができる、すごく大切なことだなと思いますし、また、保育士側としましても、悩みを相談することによって、今の現状というのをすごく把握できますし、また、先ほどもお話もありましたように、保育士の資質の向上にも本当につながることでありますので、いい取組ではないかというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。

今、吉田さん、織田さんのお話ありましたけれども、この大戸地区、それもこちらは中原区の周辺のエリアだけでも、こういう相談だとかということに至ってくれば、ものすごい地域全体としての子育ての安心感が高まる、そういう連携というのが生まれると本当にありがたいなと思います。

比較的新しい、またはまだ地域との連携という形では、まだそれほどということですが、今回加わってみて、議論してみて新しい発見、いい意味での発見あったなというふうなコメントをできればBグループのお二人から頂戴したいのですが、清水さんと、それから齋藤さんからもコメントいただいてもよろしいですか。

清水さん：ひまわりほいくえんの清水と申します。

今回、初めて車座集会に参加させていただきました。私たちの園は今年4月に開園したばかりの園でして、法人の本部が県外にあるということもありまして、地域のことから知れたらいいな、なんて、そんな集会になればと思って参加させていただいたのですが、本当に地域の方と交流するのに、すごく垣根が高いというか、本当に心構えをしてという感じで取り組んでいたのですけど、そういうことよりも、本当に近くの方と交流するとか、公園で少し会った方とお話するとか、そういう簡単なことから始めればいいのかということ、すごく身に染みて分かったので、あと他の保育園さんがやっていること、こんなことをやっていますよなんて御案内してくださったので、そういう小さなことから始めればいいのかと思いましたし、私たちも

1年目なので、まだまだそこまで保育士の技量というか、そんな大それたことができないな、なんて思っていたのですが、そういうことをすることによって保育士の質が上がったりとか、スキルアップにもなるということを感じ得たので、今回の機会をいいものとして、交流ができたらいいなと思っております。

本当にありがとうございます。

市長：すてきなコメントありがとうございます。

先ほどの織田さんも吉田さんもそうですが、いろんな相談されると保育士のレベルが上がっていくというふうな話は、非常に印象的だったんですね。そのコメントを含んでいただいたと思うのですが、齋藤さん、それではお願いいたします。

齋藤さん：本日は参加させていただいて、ありがとうございました。

今、うちの園は、川崎市の認定保育園でやらせていただいている、来年度の4月から小規模保育施設としてやらせていただくので、多分皆さんの園とは全然違って、ゼロ、1、2歳児しかいない中で、これからどうやって地域の方と交流していくのか、またほかの園さんとの交流をどうしていくのかというので、今年度はそれを目標にいろんな研修とか会とかに参加させていただいていたのですが、まずは本当にすぐ近くのところから、こちらからもいろいろ発言して、聞いたりとか、お話をさせていただいて、まさか園の隣の隣に自治会長さんが住んでいるとは夢にも思っていなかったりとか、今年初めていこいの家のほうに声かけさせていただいて、ハロウィンのときにお菓子を子供たちに渡してほしいのですというお話をさせていただいたら、もう是非来てくださいと、その後から少しずつ交流が持てるようになって、今日折り紙を老人の方とたくさん作ったので、子供たちと取りにきてくださいと言われて取りに行ったりとか、本当にそういったことを、今年一年でいろいろやらせていただけたのかなと思っています。

今日のこともちろんそうなのですが、これからもこういう会にはたくさん参加させていただいて、地域交流等を、今参加しているのは私だけなのですが、私以外の先生たちにもこういう場を経験していただけたら、本当にもっともっとよくなっていくのかなと思いました。

ありがとうございました。

市長：ありがとうございます。

今、コメントいただきましたけれども、ハロウィンでお菓子をもらいに行くというふうなので、そういうことも通じて地域と関わるきっかけをもう始められているということで、すてきな取組の一つではないかなと思います。

さっき聞いていたら、こちらのどこかの神社のお祭りがあるからということで、そうなんだと、皆でメモっているという、そういう情報共有の場でもあったのだというので、いい効果が副次的な効果が生まれているなというのを感じさせていただきました。

それも大切な情報ですね。そこに、どう自分たちも地域の中で絡んでいくのかというふうなことです。

それでは、ちょっとAグループのほうに移ってまいりまして、いちご保育園さんの内田さんから、内田さんのところも比較的新しいところというふうに。

内田さん：3年前から。

市長：3年前からですね。

今日の新たな発見みたいなものとか、気付いたことがあったら、コメントいただけますでしょうか。

内田さん：いちご保育園の内田と申します。本日は参加させていただきまして、本当にありがとうございます。

した。

まず、こういった場に参加させていただいて、いろんな先生方とか町内会の方々と知り合えたということ自体が、本当に素晴らしいことだというふうに考えております。

なかなか気軽に他の保育園さんにアクセスしてみることができなかつたのですけれども、今日をきっかけに、ちょっと困ったことがあったときにいろいろ相談させていただきたいなというふうに感じました。

先ほど出てきた話の中で、高齢者の方々との交流という話があったのですけれども、実は、つい先日の職員会議でも高齢者の方々と交流したいよねという話が出ていまして、ただどうやろうというのが全く分からないという状態だったのですけれども、今日まさに老人会とか老人いこいの家とか、そんなキーワードをいただいただけでも、先に進めそうなので、是非明日から交流させていきたいなというふうに考えております。

あと、吉田先生と織田先生がおっしゃっていた、地域の方々の子育て相談、これも微力ながらお力になれることがあればやりたいなというふうには考えていたのですけれども、どうやろうというのがなかなか分からなかつたのですけれども、見学に来ていただいた方々をきっかけにという話は非常に目から鱗でして、これも逆に、何で今までやらなかつたのだろうというのはちょっと恥ずかしいぐらいに感じました。これも、いつかと思っていると先延ばしになってしまうので、もう明日からやっついこうかなというふうに考えております。

市長：素晴らしいですね。ありがとうございます。

今の内田さんと、それからちびっこランドの野辺さんのところと女木さんのところというのは、もうそもそも近いのですよね。近いけど交流はありましたか。野辺さんのところと、あるいはこの3園だけでも何か交流はありましたでしょうか。

ちょっと野辺さん、コメントいただいていたいいですか。

野辺さん：全くないです。あることは分かっています。この辺のこの状況は分かっていますけれども、ほとんどない。そういう現状です。

市長：これから、この連携というのはどうでしょうか。

野辺さん：積極的に連携ができて、それぞれあるところで、そういったものの連携はやっていく必要があるなど。

特に私が感じているのは、高齢者との園との関わりということ。これはお互いに認識不足で、保育園をつくるのに年寄りが反対するとかいうことになるので、日本の社会を考えた場合というのは、子供は宝であり財産です。もっともっと子供は大切に。これをお互いに理解してもらわないと困るので、だからもっと保育園を積極的に展開していくということになるならば、これはやっぱりお互いに理解し合っていないと。特に今、核家族で、おじいちゃんとおばあちゃんと過ごしてない夫婦がものすごく多いのです。これを一つの保育園の中でどうしたらきっかけができるのかということでは、保育園では私も積極的にこういう方に来ていただいて、絵本を読むとか、こういう部分で積極的に関わっていただくという場をもっともっとつくっていかないといけないなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。素晴らしいコメントいただきました。

三つの園、すごく近いのだけど、なかなか今までなかつたよねということですが、女木さんから少しコメントをいただいてもよろしいですか。今後の決意みたいなことも含めてですけど。

女木さん：新城公園によく行っているのですが、その近くに小田中さんがあって、あと上小田中西公園にはい

ちご保育園さんとよく会って、今日も保育園で会ったよとって、公園の中では声をかけながら交流はさせていただいているのですが、保育園のほうに何うということは、まだできていないし、うちの職員さんも小さな保育園といっぱい交流したいという思いはすごくあるので、どんどん声をかけて、これからも交流させていただきたいと思いますので。

市長：ありがとうございます、是非。

今日は、この会場を貸していただいております、上小田中保育園の石川さん、本当にありがとうございます。意外と今日、議論を聞いている中で、園児たちは結構歩いていますね。歩いているって、結構遠いところまで歩けるんだというのを少しいろんなところで聞いて、結構遠くまで歩いて公園まで行かれるのですねというのを感じたりするのですが、他園との連携みたいなことについては、どういう感想をお持ちになりましたか。

石川さん：ちょっと他の保育園さんに行きたいとか、そういう思いがお互いにあるのかなというふうに感じています。少し距離があったりとかするというのが、なかなかすぐやってみようというところにつながらないのかなというのがあるのですが、意外とお顔を合わせて皆さんとお話することで、積極的にまた次に一緒に交流しませんかとか、こんなことをしたいのですけれどどうでしょうかというふうにお声をかけやすくなったかなと感じております。

市長：どこか公園でとか、こちらは立派な園庭あるからあれなのですが、他の園との交流というのは、それほどあるわけではないですか、今。地理的なものもあるのですかね。

石川さん：一番近くが上小田中西公園なのですが、こちらから行っているいろんな保育園さんと一緒になることはあるのですが、一緒に遊ぶというところまでは、園児もなかなか機会がなくて、消極的かなというふうに思います。あとは、近隣の保育園さんに来てくださいというの、1年に数回かなというところでは。

少し一緒に遊ぶだけじゃなくて、子供同士の顔もつながっていくような公園遊びとか、それから連絡をとってこんなことをして交流できたらいいですねという保育園同士の、保育者のつながりも深めていけたらいいのではないかなと思います。

市長：ありがとうございます。

先ほど、あおぞら保育園の高林先生のほうから、この公園は使っている園は二つぐらいとなっているけど、実は5園ぐらい使っていて、ごちゃごちゃになっているというような話ありましたけど、やはりいろんな園の方たちがいる中で、自分の園の子供がどこにいるのかというのは分かりづらくなってしまいかという意味では、そういう意味では同じ公園利用している先生方がちゃんと顔の見える関係をつくっておくとかというふうなのを大切だということを感じられますか。

高林さん：感じますね。

市長：ちょっとそのことについて、コメントいただいてもいいですか。

高林さん：たびたびすみません、あおぞら保育園の高林です。

うちは隣が公園ということで、先ほどお話ししましたが、本当に長いこと使わせていただいているので、最近、だんだん保育園が増えてきて、こちらの資料には2園使っているという感じになっているのですが、実際には5園ぐらいというときがほとんどで、もうそうなるとうちにごちゃごちゃというような感じ

なのでですね。ですから、うちの園児はどこみたいな状態が起きてしまうので、子供さんたちはやっぱり、10人いろいろ遊びたがりますよね。いろんなところに行きたがりますので、そういったところにあんまり制約もつけないし、ここだけで遊んでとか、そういった制約はなるべくつけないし。そうすると、やっぱり公園もある程度の広さがある公園なので、その中で何十人という、5園という、恐らく100人ぐらいになってしまっていると思うので、やっぱりそうなったときには、うちだけでは見切れない。当然のことながら、公園ですからほかのお子様も利用しているわけですね。それらを阻害するわけにもいかないので、うちなんかはなるべくほかの子なんかと一緒に遊べるようにというふうにやっているの、やっぱりそういった交流というか、皆で全部の子供を見る、そういったシステムができれば、もうちょっと安全に、もうちょっと自由に遊べるのかなと思います。

市長：ありがとうございます。

時間が実は大分迫ってきておりまして、そろそろまとめに入りたいと思うのですが、コメントいただいているのが、和田さんからコメントいただいけません、今の全体的なことを通して、園との連携、それから町会の皆さん、地域との連携ということの二つのポイントで端的に、こういうことが可能だということを感じたよというのを、一つずつコメントいただければありがたいです。

和田さん：まず、地域の方との交流は本当に先ほどどなたかがおっしゃっていたのですけれども、とても敷居が高いものと思っていて、何か新たに交流をというふうに私もちょっと意気込んできたのですが、やっぱりそうではなくて、先ほど市長がおっしゃったように、あるもの、お互いにやっているものにお互いが参加をする、参加をしやすいものに参加をしていくことで交流していく。そして、その情報が今まで余りなかったのですけれども、今回こうやって顔を見合わせて情報交換することで、すごくこういうことで一緒に交流できるものがあるのだなということがすごくよく分かりました。

先ほど保坂さんが資源の共有というふうにおっしゃっていたのですけれども、資源の共有と、あと情報共有ということがとても大事なのだなというふうに思いました。

保育園同士の交流では、下小田中のほうでは幾つかの園の先生方とやっているのですけれども、お互いのニーズというか、こんなことをやりたい、例えば駅近くの保育園だと園庭がない保育園が多くて、園庭で遊びたいんだなんていうことは、お互いのニーズというか、こんなことを求めているのだなんていうのが分かり合えると、うちは園庭があるからどうぞなんて、先ほどもBグループのほうではあったのですけれども、そんなニーズがお互いに分かると、うちは園庭がないけれども、でもこの催しものがあるからどうなんて、お互い呼び合えて交流できるのかなと思いました。

コメントとしては、情報共有というところと、資源の共有というところがどちらにしても根底にあるのだな、なんて思って、とても勉強になりました。ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

それでは、今までの話を受けて、区長から皆さんの意見をどう受けとめたのかということコメントをお願いします。

区長：今日は、御参加いただきありがとうございました。

こういう場面は、初めて区としてつくった場面でございます。大戸地区は地域包括ケアでいろいろワークショップをやっている中에서도、こういう保育園、また公園というところが実際に、それぞれが使うときにそれぞれ掃除をして使っていたり、遊具をしっかりと拭いてから使っているというようなことを私もお聞きして、これって地域の方々本当に御存じなのかな、一生懸命掃除をしなきゃいけないと思っているところで、園の方々はそのような部分でもやってくれているところを、ちゃんと情報共有をしていくと、

大変だなというところをお互いに補えるという部分が出てくる。こういう場面をつくらなきゃいけないのが、やはり行政の区役所のやらなくてはいけない仕事なのかなということで、今日は皆さんに来ていただいて、今、御意見を伺って、こういう場面をつくることというのが、一番大切なのかなというふうに感じましたので、これからも中原区、だんだんもうちょっと園が増えていくかと思っておりますので、是非こういう場面をお声がけしたいと思っておりますので、御参加をいただければと思います。

町内会の方々も大変だと思います。是非、こういった部分で、少しでも地域の方々の方を力ということを集約していただければありがたいかなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本日はありがとうございました。

市長：どうもありがとうございました。

先ほど、齋藤さんのほうから、今日は私が参加したけど他の職員にも参加させたいというすばらしいコメントをいただきました。

区民車座集会という形の、これが一つの第一歩のきっかけとしていただいて、是非中原区全域にこの展開を横展開していくということが大事ですし、これをきっかけにそれぞれの地区でより深めていく。そして今日は園長先生や自治会長さんというくくりでありますけれども、それ以外の方、職員の方、あるいは町会の他の役員の方という形で、少し広げていくということをやっていけば、より深い連携ができるのではないかと思います。限られた資源というか、先ほど和田さんからありましたけれども、あること探しをしていこう皆で、ということをやっていけば、ああそんなこともあるんだ、そんなこともできるんだというような形に少し転換していく一つのきっかけに今日はなったのではないかなと思ひました。

今日は、御参加いただきまして、本当にありがとうございました。

こういったことを、中原区でいいモデルをつくっていただいて、これは中原区から他の区でも同じ問題が出ていますと思ひますので、是非いいモデルを皆でつくっていただければと思ひています。

今日は御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

(拍手)

司会：皆様、本日は大変お疲れ様でした。お手数ではございますが、お手元に配付させていただきましたアンケートについて御協力をお願いいたします。記入後、職員にお渡しくださるようお願いいたします。また、受付時にお渡ししました名札につきましては、園を出る際に外の受付職員が回収いたしますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして第42回区民車座集会を終了とさせていただきます。

本日は御参加いただきまして、誠にありがとうございました。